

せ ん ぼ 通信 No.53

ば・あ・や・の・う・け・う・り

「前向き」

花火大会は縁がないのですが、音楽のながれる中で連発…なんて聞くと、打ち上げ現場は…？と、そちらの方を、見てみたい思っていました。

花火師・青木昭夫さんの記事～

「花火大会では、多いときは5分間に3000発打ち上げます。十数年前からは、打ち上げの制御にパソコンを導入、100分の1秒ずつズラシながら連続で打ち上げる…という芸当も可能に。近年の花火大会の特徴は、音楽に合わせて、たくさんの花火が次々開いていく。パソコンがなければ難しかったでしょう。数千個の星をすべて均等に並べる手作業も、夜空にどういう絵を描くか想定し、100分の1秒を制御することも、技術だけではこなせない。前向きな気持ちが必要です。

一番うれしい言葉は、「感動しました」です。心を動かす花火をつくることが目標です。」爆発物をあつかいながら、緊張の連続の現場、それでも、感動するお客さんのことを思いながら、作業されているのですね。

各地で雪まつりが行われるころ…どこかで、冬の花火で、自分をはげましている人も…。

朝ドラ「まんぷく」

オープニングの映像が好きで、ニッコリ…。戦中戦後の波乱で…ドキドキハラハラ…。いよいよラーメンができました。安藤サクラさんの、ラーメンの食べ方がじょうず。「ズルズル…ズルズル…」と、おいしそう。ないものを生み出す発明家ってすごいなあ…と、感心しながらも、男の人はいいなあ…。発明するのが奥さまだったら、あんなふうには絶対許されないなあ…。きつと、「夢みたいなこというな…寝言は寝て語れ…」

中田町のお客さまにまぜてもらい、山形の熊野大社と亀岡文殊へ初詣。4歳と3歳の「なーちゃん・しーちゃん」の姉妹もいてびっくり…。ママさんとおばあちゃんも一緒に、朝早くから、がんばってるのね。ご祈祷…奉納舞…宮司さんのお話と、大人でも長くて寒かったのに、二人はおりこうさんに…。文殊様の参道は、長～い坂と石段でちょっとした難所。そこに、なーちゃんとママさんの姿が…。下るとき、ズルっと何度もすべってこわかったよねえ…

おんぶしたかったよねえ…でも、泣かずに…ころばずに、自分の足で、しっかり歩きました。

母と子のきずな深める雪の道
おさなの日々の幸をば祈る



山形 熊野大社（むすびの神様）